

伴って今後増える運転  
できない人のためだけ  
でなく、街のにぎわい  
を取り戻すことにもつ  
ながる」と指摘する。

## ネパールでの

### 医療支援報告

鹿大のマノズ医師

大地震が起きた母国  
ネパールに一時帰国  
し、医療支援をした鹿  
児島大学脳神経外科学

講座の医師、マノズ・  
ボハラ特任研究員(31)  
が11日、鹿児島市の同  
大学病院で報告会を開  
き、学生や医師らに現  
地の状況を話した。

マノズさんは地震発  
生から10日後の5月5  
日、11日、首都カトマ  
ンズに入った。報告会  
では、崩壊した建物や  
手術の様子を写真を見  
せながら説明。同講座  
同門会などからの寄付

金が使われる仮設住宅  
建設にも触れ、「仮設  
住宅は今最も必要とさ  
れている。医療的なサ  
ポートも含め、さまざま  
な支援に感謝してい  
る」と話した。

ネパールの脳神経外  
科医療を長年支援する  
有田和徳教授(62)も現  
地に行き、医療支援を  
したことを報告。「息  
の長い交流支援が必  
要」と呼びかけた。